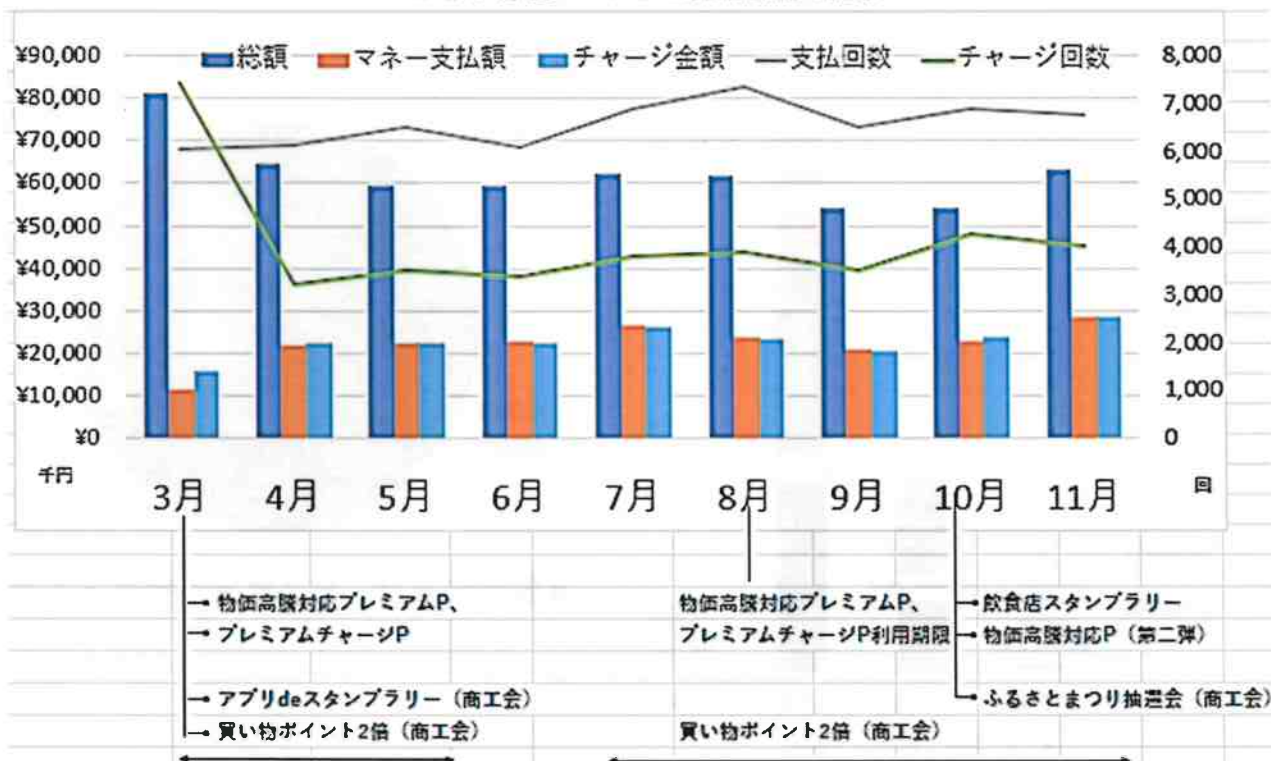


白川町内の消費者動向調査

白川町デジタル地域通貨「しらか」利用状況レポート（令和7年3月～11月）

3月の運用開始から9か月が経過したデジタル通貨地域「SiRaCa」の利用状況です。

しらか各種イベントと利用状況の推移



1. キャンペーン施策と利用額の強い相関

令和7年3月から11月までの利用総額は、約5億6100万円でした。

■プレミアム特典など特定の施策が実施される月に大きく跳ね上がる傾向があります。

① 開始直後の最大ピーク

- 3月は「物価高騰対応プレミアムポイント」や「プレミアムチャージポイント」などの大型施策が重なり、期間中最大の約8,000万円を記録しました。

② 秋期の再上昇

- 9月に一度落ち込んだものの、10月の「飲食店スタンプラリー」や11月の「ふるさとまつり抽選会（商工会）」などのイベントにより、再び上昇に転じています

■支払回数とチャージ回数について、グラフ右側の折れ線を見ると興味深い傾向があります。

③ 高頻度の決済

- 支払回数（グレーの線）は、チャージ回数（緑の線）を常に大きく上回っています。これは「1回のチャージに対して、少額の決済を複数回行う」という、QRコード決済特有の利用スタイル（スーパー等での小まめな利用）が浸透していることを示唆しています。
- 「マネー支払」と「チャージ金額」の安定的な推移3月の開始時こそチャージ回数が突出していましたが、4月以降はマネー支払額とチャージ金額がほぼ連動して推移しています

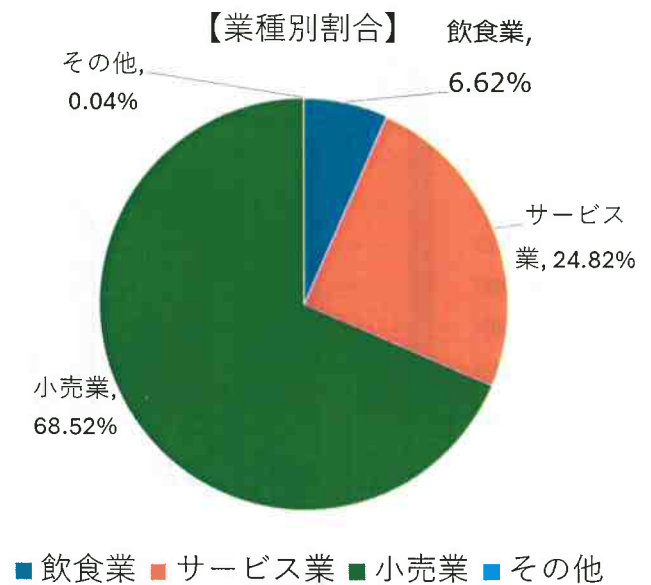
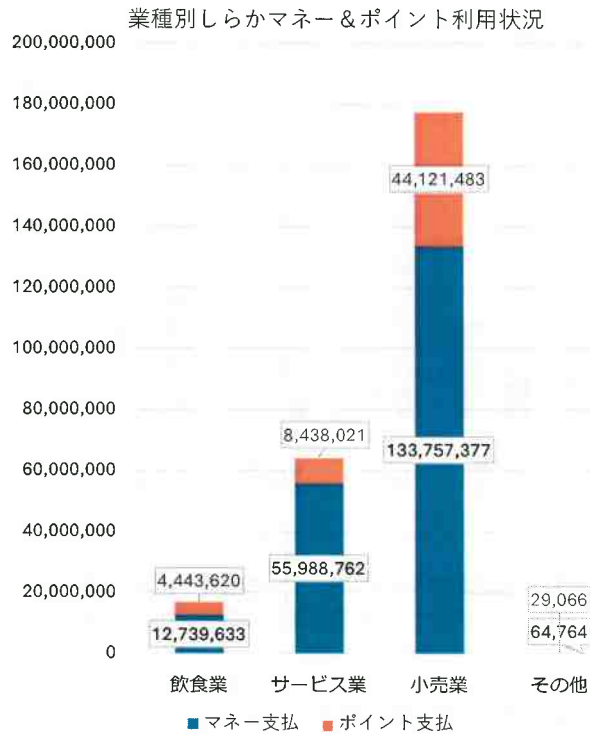
④ 日常利用の定着

- 4月以降、利用総額は5,000万円～6,000万円弱の範囲で安定しており、一時的なブームに終わらず、地域通貨が住民の生活基盤に組み込まれつつあることが伺えます。

2. 業種別・地域別の利用傾向としては、生活必需品を扱う業種や加盟店数の差によって、日常的に利用されやすい地域を中心に利用が多くなっています。

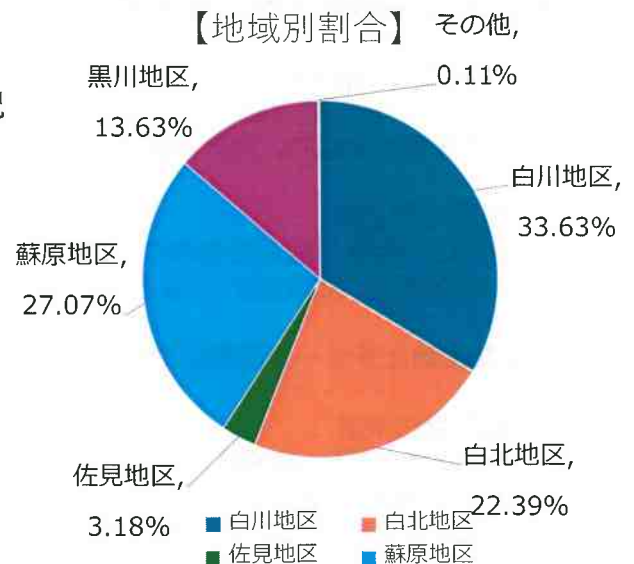
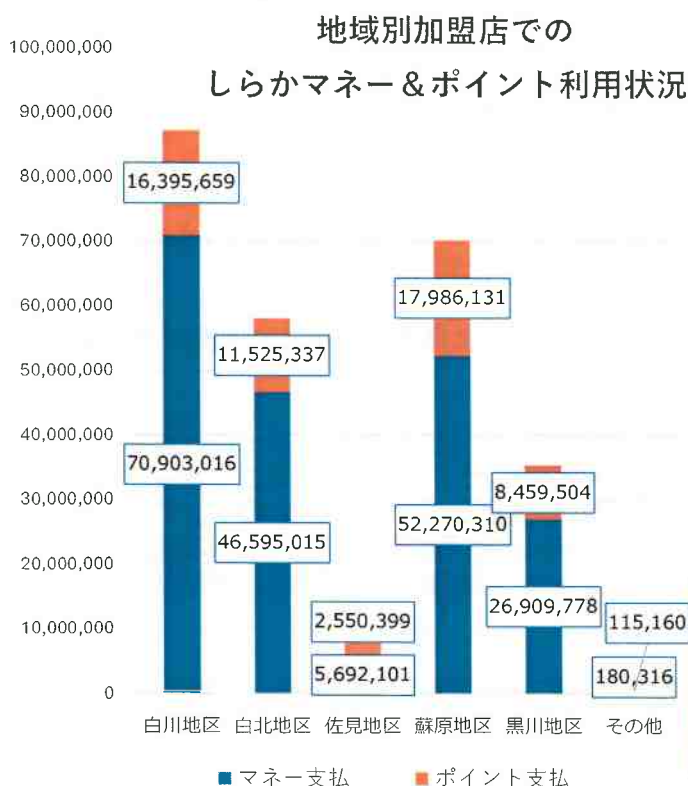
① 業種別：

- 小売業が最も多く、次いでサービス業、飲食業の順となっています。日常の買い物がメインの利用用途であることが分かります。



② 地域別

- 以下の通り、上位3地区で全体の80%以上を占めています。白川地区（33%）蘇原地区（27%）白北地区（22%）



まとめ：今後の課題など

「大型ポイント付与による新規獲得には成功しているが、利用を促す戦略やしくみがさらなる流通額拡大の鍵となります。

「しらか」事業の町内での経済効果はこのように大きいいため、引き続きご利用をお願いいたします。